

令和3年5月31日

令和2年度 社会福祉法人まるこ福祉会
事業報告



第25回子どもレストラン（どんぐり山で開催）

まるこ福祉会 令和3年第1回評議員会
2021年（令和3年）6月26日（土）きらりホール 8時30分

1.総括

わたしたちは今、これまで人類が経験したことがない切迫した危機に直面していると思います。それは、異常気象の増加にみられる年々悪化の一途をたどる気象変動の問題に加えて、あの新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行が襲いかかり、それに伴って社会的にも経済的にも、さらには人道上でも混乱が各地で続いています。

この行き場のない喪失感がいたる所で広がっており、生活上でも精神的にも突然の困窮にさらされる事態が生じている令和2年であり、残念にも現在も継続中であると言わざるを得ない深刻さでもあります。

思い起こすと、14世紀、欧州人の4分の一を死に追いやったといわれているペストが大流行した時は、想像もつかないほどの社会的混乱が発生したことを、私たちは歴史の教訓として学びました。その時のイタリアの詩人、ペトルルカは、ペストの流行を機に「人間が見つめるべきは、外界でなく、『心の世界』である。人間の魂の内部にこそ、人を幸福にするものと不幸にするものがある」との有名な言葉を残しました。

それがあつた種の機会となり、悲惨な状況でもいたずらに嘆いたり逃避するのではなく、人間の本来持っている強靱なる精神力を今こそ発揮しようという風潮が各地に広がり、あのルネサンスという人間復興の光が暗黒と困窮を克服して一大文明を興隆させたのです。

私たちまるこ福祉会は、「冬去りしあと、春は、幸せと共にやってくる」との希望溢れる言葉を胸に出発した令和2年度、最初に取り組んだ地域福祉として、その福祉の原点に立ち、生活や学習に困窮する子どもたちのために、きらりホールで、急遽「休校中子どもレストラン」として開催。朝8時30分から午後4時まで、ボランティアの大学生や地域住民と共に生活をし、学び、遊び、食事をしました。

実際に、全国の学校が休校中になつても、わたしたちは、誰ひとりたりとも置き去りにしない、子どもは21世紀の使者であるということの使命と自覚から、子どもを中心に誰もがもつ人間力を尊重して実践をしました。

この一年間、地域福祉の貢献に様々な取り組みを実践して参りました。「大海よりも壮大なもの、それは、大空である。大空よりも壮大なもの、それは、人間の心である」との箴言を少しでも実践化した事例を以下に報告します。

具体的には、まるこ福祉会創立16周年の佳節を迎える中、地域福祉の灯台として、地域住民や各種団体と連携・協力のもと、地域福祉を視点に特色ある事業を展開し、また、各施設での様々な事業を推進してきました。以下では、前半に、「地域福祉を中心とした事業報告」を、また後半では、「施設別事業報告」をいたします。

(1) コロナ禍の中でしたが、まるこ福祉会として、チームあつたかい輪の温かな支援を受け、年間来客数は20,861人となり、きらりホール、きらり市民ギャラリー、サロンあつたかい輪を有効に利用されました。内訳として、ぐらんまるしゅ 17,161人、きらり市民ギャラリー1,330人、きらりホール855人、ぱれっとハウスの講座関係1,019人、えんじょいプログラム496人でした。

(2) 中でも、平成30年8月より毎月第一土曜日に「子どもレストラン・きらっと」の開催が始まりました。毎回、子どもたちは、喜びをもって参加する姿が随所でみられ、特に、本年からボランティアも地元の高校生や大学生が大勢参加するようになりまし

た。お陰様で、協力団体より、寄付金や食材等の支援をいただきながら運営しております。（詳細は別項）

(3) その他の事業については、後段で報告します。

2、まるこ福祉社会が目指す理念

「人の心に幸せの種をまく」

明治の文豪・幸田露伴の「努力論」の中に、「人間の生き方」を3つに分類したところがある。それは「惜福」「分福」「植福」である。

「惜福」とは、自分が持っている財産や宝を無駄遣いしないこと。

「分福」とは、自分だけ楽しまず、人に福を分けてあげること。

「植福」とは、幸せを、人の心の畑の中に、種を蒔いてあげること。そして、幸せの花を咲かせてあげる人のこと。

私たちまるこ福祉社会は、この「植福」を、障害の有無にかかわらず、どんな人々も味わえるよう、施設やグループホームにおける様々な作業や生活をとおり、その人の人生において、心の畑に幸せの種をまき、幸せの花を咲かせることを、永遠に目指していきます。

○理念の達成を目指し、職員朝礼で確認し合う具体的実践項目として、次の事を「職員指針」と定め掲げて、前進ある日々を送っています。

(1) オアシス宣言

「オ」… 思いやりの心で

「ア」… 明るさを大切に

「シ」… 幸せなときを

「ス」… 過ごせる職場 ホーム まち 人生を目指す

(2) 「あいさつの心」

あ…あかるく笑顔で

い…いつでも

さ…さきに

つ…つづけて

(3) 「明るい職場は心も成長」

み…認め合う心 (尊重)

た…高め合う心 (向上と練磨)

よ…寄せ合う心 (協調)

(4) ATM

A…明るく

T…楽しく

M…前向きに

令和2年度 地域福祉を中心とした事業報告

～地域福祉の灯台として、「社会貢献活動」に努める事業から～

- 1 地域住民と連携・協力により、『地域福祉の灯台』としての自覚と使命に燃え、地域住民の文化活動及び人権尊重の精神の高揚を推進し「生涯学習の学び舎」も構築。平成28年10月15日にオープンした福祉空間施設は、①パン工房のぐらんまるしえ ②障害福祉サービス事業所きらりと地域密着型特別養護老人ホーム大樹の利用者及び職員の食事を担当する厨房（平成29年2月1日給食開始）、③サロンあったかい輪、④きらりホール、⑤きらり市民ギャラリー、⑥子育ての相談や講座運営の「ぱれっとハウス」の6施設は、子どもからお年寄りまで、だれもが気軽に足を運び、潤いの時間を心豊かに過ごせることが出来る「オアシス」の場として、『地域福祉の灯台』の役目を果たすことができた。（詳細は別項）また、今年は、コロナ禍の中であったが、えんじょいプログラムとして6教室の講座が実施された。
 - (1) 講座の会場となるきらりホールを活用し、地域住民が講師となって地域住民のために多種多彩にわたる文化や趣味の講座を開設して、生きがいとなる活動を推進した。布あそび、折り紙講座、子育て、折り紙、パドル体操教室、発声で健康づくりを始めとした各種講座の開催は、幅広い方々が利用できた。
 - (2) また、講師役となる地域住民は、60代から80代の方が中心であり、特技を生かす場となるだけでなく、生きがいづくりにもなっている。
 - (3) さらに、8月9日には、終戦75年の本年「平和の心 詩の朗読コンサート」を開催。平和と命の尊さを学び、まるこ福祉会の職員指針の中にある、「認め合う心」、「高め合う心」、「寄せ合う心」を確認しあった。
 - (4) サロンあったかい輪の開設は、地域住民の会話と交流の推進など生活空間として貢献している。特に、地域住民によるボランティア団体「チームあったかい輪」は、創設4周年を迎え30名の仲間が集い、中でも80歳代のご高齢の方が、ボランティアとして参加される姿からは、「生涯、青春」そのものであり、来客の人々に、勇気と希望を与えてくれている。願意として、「互いに会ったら、会話をしよう」と、老若男女問わず、たった一杯のコーヒーから温かな幸せの時間を楽しめるサロンにまで向上してきたと実感している。
- 2 「子どもレストラン・きらっと」の開催（別項）

子ども食堂の原点は、今から19年前の平成12年に東京の練馬区で始まった「貧困家庭の子どもに食事を提供する」ことが発端であるが、現在は、様々な課題解決の活動にと変容している。

全国で4,000余か所（NPO法人全国子ども食堂支援センター、2021年1月調査）あり、全国の6つの小学校に対して1つある計算になる。充足率18%である。

 - (1) 私たち、まるこ福祉会が目指す子どもレストランの第1の特長は、核家族化や超高齢社会の到来により、子どもからお年寄りまで、互いに支え、認め合い、高め合う人権尊重を基盤にした、思いやりの心を耕す子どもの居場所づくりである。さらに、異世代間交流の場としての子どもレストランを企画運営するものである。
 - (2) 2点目の特長としては、その運営スタッフの中心として、地元の丸子修学館高校や長野大学の学生たちが、毎回意欲的にボランティア活動として参加している点である。子どもレストランで、子どもと共に遊びや学習、集団活動を通して、子どもとの関わり方やコミュニケーション能力を学び、将来は、子どもとかわる職業に就きたいと考え、信州大学教育学部を受験し見事合格した高校生も輩出できたのである。

- (3) このように、子どもから地域住民の高齢者まで、食事作りや遊び、伝統文化の継承活動を通じて、心の絆を結び、生きがいと喜びのオアシスを創出できていることが3つ目の特長である。課題もあるが、今後は100回の開催を目指し、子どもたちのためのレストランを発展させていきたい。
- (4) 本年度初めて、1月16日に、上田市社会福祉協議会と一緒に「第1回うえだ子ども食堂」を開催、200名の方が、テイクアウト方式で、食材を求めていた。この時、改めて、生活に困窮する人たちのための行動が大切であると痛感をした。
- (5) さらに、3月30日には、「0円スーパー」、「0円食堂」を開催し、117名の方に、国産和牛の焼き肉弁当とうな重を配布し、県内外21社から真心の食材をいただき配布することができた。

(6) 「0円スーパー、0円食堂」で学んだ心

～令和3年5月8日 信濃毎日新聞 建設標掲載の記事から～

『先日、「0円スーパー、0円食堂」を開店し、黒毛和牛の焼き肉弁当とうな重117食また、お米や野菜等が2時間で終了。ある独居老人は、「これで、やっと腹いっぱいのご飯が食べられる」と、ご婦人は、「コロナで職を失い、食べ物も満足に買えませんでした。大助かりでした」との感想が。コロナ禍での生活困窮者を支援する目的で、どうやって必要とする人を見つけるかが課題でした。

そこで、我が社会福祉法人の障害者と職員が一緒になって各家庭を訪問してチラシを配布したり、民生児童委員の方にも協力をいただく中、趣旨に賛同した高校生5名がボランティアとして参加。さらに、地域の農家からお米や21社に及び県内外の業者からも食材が届けられたのです。

食材を提供された独居老人は、半分の食材を仲間に配ったと話され、翌日、お礼にと古着を法人に届けられたのです。

分福の心とは、今困っている人の心に寄り添い、行動する心であり、その思いやりの心と心が広がり、地域住民の心を耕す肥沃な土壌となることを教えていただきました。人間の心の本当の温かさと美しさ、そして他人に尽くそうとする精神の輝きに感謝です。』

3 「WITH新型コロナウイルス」対策のための地域貢献

「休校中子どもレストラン」を開催

(1) 「真心をいただいたこと」 (職員の朝礼から抜粋)

新型コロナウイルス感染予防のため、学校が休校となり、私たちまるこ福祉会は、職員の提案から、保護者の仕事の関係で留守家庭となった子どもたちのために、子どもの居場所として、「子ども支援レストラン」を開き、135名の子どもたちに食事を無料提供し、学習や生活支援をしました。

(2) 「休校中子どもレストラン活動からレポート」

学校が休校となった間、我が社会福祉法人内の福祉空間施設を開放して、親が仕事で留守家庭となった児童生徒を対象に、「子ども支援レストラン」と称して、学習支援や生活支援、食事の無料提供の活動を実施しました。

135名にも及び児童生徒は、異年齢であり、学校も学年も違う中、1日にして友だちになり、極めて有意義な毎日を過ごすことができました。ボランティアで参加してくれた地元の高校生や長野大学の学生、さらには地域住民の有志が積極的に参加してくださり、正に異年齢集団による幅広い人間関係の中で、多彩な学習や活動ができたのでした。

保護者の感想として、「利用する度に、今日は、どんなことをしたのか、家に帰ってくると、仕事から帰った私たち親に向かって、一気にとても楽しそうに、その日の出来事や生活の状況を話してくれたのでした。」また、ある保護者は、「子どもも私た

ちも、本当に助かりました。感謝の気持ちでいっぱいです。」とか、「とてもバランスのよいスケジュールで大変良かったです。学校の宿題も大学生に教えていただいたり、美味しい昼食もお腹いっぱいいただき、大学生のお兄さんやお姉さんと一緒に遊んだり生活ができたことが、とても意味のあることでした。」また、「子どもたちにとって、ストレスのない充実した日々でありました」等、達成感のある子ども支援レストランであったことがうかがえます。

また、3月11日は、あの東日本大震災の教訓を避難訓練を通して体験学習をすることも出来ました。本当なら、同じ学校で同じ先生のもと避難をするところでしたが、その日ばかりは、全く違う場所で、違う友達と、違う大人の指導者の下で、突然の避難ができ、より実践的な訓練となりました。

この日は、元学校教師もボランティアで参加していただき、道徳の授業も展開することができたのです。いじめや差別のない、人権尊重の精神まで学習を深めることができました。

子どもたちは、普通の学校では体験できないことばかりで、極めて新鮮な教材により深まりのある人権教育ができた実感しました。

さらには、地元のオカリナの演奏家がボランティアで、体験的な音楽学習を展開してくださり、子どもたちは、思わぬ楽器演奏により興味深い音楽教育を体験することができたのです。

このように、12日間は、あっという間に過ぎ、135名の子どもたちは各学校に戻っていきましたが、現実には、まだ休校中であります。ある子どもは、「ぼくは、初めて来たときに、しっかりやっつけていけるか心配だったけど、先生（これは、まるこ福祉会の職員やボランティアの学生や地域住民のことを指します）たちが、しっかり僕に分からないところを教えてくださいまして本当に助かりました。バス旅行にも連れて行ってくださり、楽しい思い出となりました」と、子どもたちも満足感が横溢した、有意義な活動であったことが伺えます。

ここで得た貴重な体験と活動から、私たち職員は多くのことを学びました。それは、困った時は、互いに助け合う心が大切であるという基本精神から、「人が一番うれしいと感じるときは、人を助けた時、そして、人から助けられた時」であることを実感することができたのです。

これからも、人のためになる社会貢献活動を進めていきたいと決意します。

(3) 令和2年4月12日、まるこ福祉会に、3万円の寄付がございました。

寄付をされた方は、東御市在住の50代の男性でした。早速に、同年4月15日（水）午後4時に、お礼の電話をしました。その男性は、「この大変な世の中にあって、子どもたちのために、一生懸命活動をされている人が、この世の中にいるかと思うと、思わず頭が下がりました。暗いニュースばかりが報道される中、徐々に明るいニュースをテレビで2回も見ました。わずかですが、お役立てください」と言われたのでした。本当にありがたいことでもあります。なかなかできないことだと思います。

(4) 同年4月16日（木）午前11時10分、丸子修学館高校から電話がありました。

島崎先生は、こう言われました。

「先日もテレビや新聞で、休校中の子どもたちのために、子ども支援レストランを開いて、無償で食事を提供されたり、学習や遊びの支援をしていることを見ました。感動しました。それに、今回のコロナウイルスの関係上、外出が自粛のレストランもきっと、お客様が少ないと思います。

うちの高校生も休みで、お願いをしていたパンの販売もできず、きっとお困りだと思えます。少しでも思い、私たち職員で、パンを買わせていただきます。毎日、パン食という訳にはいきませんが、週3回、月・水・金曜日に、丸子修学館高校に販売にきてください。50個から70個でしたら職員が買わせていただきますので、どうぞ、販売をお願いします。」と。

本当に、ありがたいお話です。人が困っている時こそ、温かな手を差し伸べてくださることほど、うれしいことはありません。感謝でいっぱいです。

この真心を忘れず、コロナウイルスに負けないで、みんなで精一杯生きていきたいと思えます。

4 地域の環境整美活動 「上田の里山にどんぐり植樹」

(平成24年5月11日付、信濃毎日新聞掲載の題字)

(1) その歴史は、9年前にさかのぼる。平成23年5月13日、第1回のどんぐりの植樹を500本行う。当時、75名のボランティアが参加。「荒地から自然公園を作ろう」との願いの第一歩が始まったのである。これにより、どんぐり山として自然環境の美化と潤いの場所づくりが創出でき、以後、毎年3回、地域住民とボランティアで整美活動を、今年で10周年を迎える。

(2) 10周年の佳節を迎えた本年、10月3日(土)は、第25回子どもレストランが、ここ、どんぐり山で開催され、110名(子ども27名、保護者14名、ボランティア69名)が、自然豊かな森林を背景に、トレッキングや野外レクリエーション、ジップライン等を中心に、午後はコンサートでも堪能した。

(3) このどんぐり山での身近な取り組みは、自然体験と環境教育の視点から、国連の「持続可能な開発目標」(SDGs)に繋がる大切な事業として、環境保護と森林再生に寄与することで今後も継続していきたい。

5 地域住民の自治活動に協力し、共生社会に貢献

(1) 地域住民の避難所として、施設(トイレ、水の確保も含め)と駐車場を提供し、地域住民の安心・安全の確保により、地域のセーフティーネットを構築。

(2) 町会の敬老会を始め、各種の会合開催の場所としてきらりホールを提供して、避難訓練や地域行事開催の実施を支援している。

6 幼保の園児との文化・教育交流の推進

長瀬・依田保育園や若草幼稚園を始めとして、地域の園児と障害者・老人ホーム入居者との観劇や音楽会鑑賞の交流を長年にわたり推進。令和2年11月には、劇団ばくの演劇公演があり、幼・保の園児たちは、年齢差を超えて、みんなと一緒に楽しむことができた。

7 地元の養護学校生徒の受け入れにより、地域交流と金銭教育を支援

地元の上田養護学校の生徒の教育実習を毎年受け入れ、勤労の大切さを学ぶ機会を提供。高等部1年~3年の全生徒が見学や現場実習を経験した。また、同生徒が、ぐらんまるしえでの買い物を実体験する機会を提供し、金銭教育を支援することができた。事前学習として身に付いた知識や経験は、将来への進路にも繋がり、卒業後、まるこ福祉会に就労する機会となっている。

8 きらり市民ギャラリーや花風里で、芸術・文化活動の発表機会に貢献（別項）

地域住民や著名人等による絵画展を始め、各種の展示により、地域住民に鑑賞の機会をつくり、潤いの場を提供した。また、小中高・養護学校の児童生徒の美術教育の一助として、その機会を提供した。約 1,330 名が鑑賞することができた。

月	団体名と展示作品	鑑賞者
令和2年4月～7月	美崎 太洋展 絵画展 48点	400名
8月	丸子絵手紙クラブ 絵手紙 45点	150名
9月	三反田銅友会 銅板店 34点	60名
10月～11月	丸子水彩画クラブ 水彩画展40点	210名
12月	内藤 文雄様 シェイプアート点23点	50名
令和3年1月	鳥山信子様 チャリティー写真展 37点	60名
2月～3月	成澤聖空様 水墨画展46点	400名

9 東日本大震災の福島県南相馬市の「物産販売支援」

ノリを始めとした南相馬市の物産を、まるこ福祉会で購入し、「サロンあったかい輪」で販売をして売上金を全額送金。この取り組みを地道に継続している。

特に、今年は、あの3. 11から10年を迎え、別項のとおり、「震災の心バトンリレー10年詩の朗読コンサート」を開催した。

危機の日常化が進む中、孤立したまま困難を深めている人々を絶対に置き去りにしない精神を、皆で保ち続けていきたい。

パンデミック宣言の1週間後に、あのドイツのメルケル首相が演説した言葉は、未だに私たちの心に宿っている。それは、「私たちの社会は、一つひとつの命、一人ひとりの人間が重みを持つ共同体である」と。

こうした眼差しを失わないことの大切さは、巨大災害が起こるたびに、警鐘がならされてきたのである。それを、私たち自身も心の警鐘として今後も打ち鳴らしていきたい。

10 「8. 15終戦の日 平和の心 詩の朗読コンサート」の開催で、平和について、大学生、養護学校、地域住民と共に学ぶ

(1) 趣旨 8月6日の広島と9日の長崎の原爆投下及び8月15日の終戦の日から本年は75年を迎えます。

そこで、歴史の教訓を忘れることなく、平和の尊さと平和の文化及び人の温かさや支え合うことの大切さを、子どもからお年寄りまでみんなで確認するために、ピアノ演奏をバックに自分の詩を朗読します。

(2) 日 時 2020年8月8日（土）10：00～10：50

(3) 会 場 きらりホール 100名

(4) 参加者 上田養護学校児童生徒、保護者各5名

来賓、地域住民代表、長野大学生、信州大学生、社会福祉法人まるこ福祉会利用者（上田養護・稲荷山養護学校卒業生中心に）、保護者、職員計65名（参加者には、お食事を用意させていただきます）

(5) 朗読者 上田養護学校児童生徒5名、長野大学生・信州大学生、地域住民代表、まるこ福祉会利用者代表 合計10名

(6) 詩の内容

- ・詩の題名は、おかあさん、おとうさん、家族、ともだちなど、広い意味で、身近な人や大切な人のことについて、支え合うことや温かさについて書き、また、命の大切さや平和、戦争等について、更に踏み込んで書くことも考えられます。

11 「10. 12 台風19号の教訓に学ぶ 避難訓練」を実施

(1) 趣旨と概要

- 昨年の台風19号で、大きな災害を被った教訓を基に、私たちのグループホームも被害に遭遇し、雨の中、歩いて避難をした利用者の作文発表と、実際に災害地取材に行った地元テレビの報道関係者が撮影した映像を見ながら当時の話を聞く。
- 災害地に救助に行った丸子消防署の署員から、水害時の避難方法と心構えについて聞いた後、地域住民と共に、実際に高台に避難をすることを通して、水害時の避難について自助・共助を体得して学ぶ機会とする。

(2) 日 時 2020年10月12日(月) 10:00~11:30

(3) 会 場 きらりホール、きらり近くの高台

(4) 参加者 きらり利用者、地域住民代表、職員 約70名

(5) 日程と内容

- 9:58 はじめの言葉 (今回の趣旨を話す)
- 10:00~10:05 利用者作文発表 「台風19号のこと」
- 10:05~10:30 丸子テレビ局が捉えた、台風19号の爪痕
- 災害現場取材に行ったテレビ局アナウンサーの話と現場映像放映
- 10:30~10:45 台風19号の教訓と水害時の避難について
- 10:50~11:20 避難訓練 高台に避難する
- 11:20~11:30 • 感想発表(地域住民、きらり利用者)
• 避難の講評とまとめ 丸子消防署の話

12 「阪神淡路大震災から26年 地域住民と防災炊き出し訓練」を実施

(1) 趣 旨 1995年(平成7年)1月17日に発生した阪神淡路大震災から26年を迎える本年、死者6,434人にも及ぶ大地震の教訓から当時、ボランティア活動で参加した人の体験や地震の概要を聞くことを通して、地域住民と共に、地震時の避難方法を学び、また、地域住民による炊き出し訓練から、人と支え合いながら生活することの大切さを知る。

(2) 日 時 令和3年1月15日(金) 10:00~11:00

(3) 場 所 きらりホール、第一駐車場

(4) 参加者 きらり利用者40名、地域住民代表10名、職員20名 計70名

(5) 日 程

時 間	主な活動
10:00	始めのことば
10:01	1. 1. 17阪神淡路大震災の教訓に学ぶ • 当時の様子 • 避難の仕方 :ホール
10:20	2. 避難 地域住民、利用者、職員 計70名
	3. 炊き出し訓練 • 丸子地区日赤奉仕団、丸子社会福祉協議会の指示のもと、利用者がハイゼックスの体験をする
11:00	4. 実際に阪神淡路大震災の被災地にボランティア参加した人の体験を聞く 秦野さん
12:00	5. 食事をする

13 「震災の心、バトンリレー 10年」

~3. 11東日本大震災に学ぶ 講演と詩の朗読コンサート~の実施

(1) 趣 旨 3月11日は、東日本大震災の日から本年、10年を迎えます。
その時、まるこ福祉会は、復旧支援に一刻も早くに立ち上がろうと、3月22日、11トン車のトラックにお米や薬を始め、食料と日常必需品を満載して被災地の福島県いわき市に行ったのでした。そして復興支援コンサートも開催し、そこで学んだ支え合う心は、この10年間、地域福祉の現場で引き継がれております。それは、

- ① 被災地の子どもを信州に迎えて様々な活動や自然体験を展開したり、
- ② 職員が地域住民と共に、被災地に行き視察研修で学んだり、
- ③ どんぐりの木を3,500本植樹して自然公園をつくり、子どもたちの遊び場を確保し地域住民の憩いの場にもなり、さらに、
- ④ 地域福祉の拠点を作り、高校生や大学生が地域住民と共に、ボランティアで、子ども食堂を支えたり、
- ⑤ 高校生、大学生、地域住民、利用者たちが、支え合う心や命の大切さを詩や作文に書いて、利用者の演奏をバックに、コンサートを開催して、確認し合う、など、被災地で目の当たりにした支え合いの心は、この10年間を通して、一人から、高校生、大学生、地域住民まで、幅広く、確実にバトンリレーされております。

そこで、その時ボランティアとして体験したことから今日まで10年間の取り組みを聞いたり、また、利用者（障害者）のオカリナ演奏をバックに自作の詩の朗読を聴くことを通して、歴史の教訓を忘れることなく、命の尊さと人と支え合うことの大切さを、子どもからお年寄りまでの地域住民みんなで確認する日とする。

(2) 日 時 2021年3月11日（木）10：00～11：35

(3) 会 場 きらりホール

(4) 参加者 丸子修学館高校生、地域住民代表、福祉会利用者 70名

(5) 講 演 体験談として、真っ先に被災地に飛んだ理事長

(6) 詩の朗読者 丸子修学館高校、地域住民代表、まるこ福祉会利用者代表

当日の日程

- ・テレビ録画放映
- ・講演 「被災者への最大の支援者は、チャレンジド」 柳澤理事長
10：00～11：00
- ・詩の朗読コンサート 11：00～11：35
- ・高校生、利用者、地域住民が詩を朗読
- ・利用者たちが、その心を歌で表現して、「ふるさと」を歌い、踊る
進行：丸子修学館高校2年生

第1部 講演 「被災者への最大の支援者は、チャレンジド」

(1) はじめのことば 利用者

(2) 講 演 柳澤理事長 題名「被災者の最大の支援者は、チャレンジド」

(3) 終わりのことば 利用者

第2部 「震災の心 詩の朗読コンサート」 11：00～11：35

進行： 丸子修学館高校2年生

(1) はじめのことば 利用者

(2) 詩の朗読 オカリナ演奏：曾根原みよ子さん

① きらり利用者 滝澤 歩夢さん

② きらり利用者 中山真一さん

③ 丸子修学館高校 2年生徒 作 代読 橋本 彩乃 さん

④ 地域住民 森井 弘司 さん

(3) 心の歌 嵐のふるさと 利用者全員で歌う ステージで踊る

- (4) あいさつ 小室
- (5) おわりのことば 利用者

特に、初めて丸子修学館高校の生徒が、司会と運営に積極的に関わってくれたことである。詩の朗読についても、2年生230名が国語の時間に、「震災」や「助け合い」をテーマに詩を創作してくれ、当日は、その代表作4編を生徒が披露してくれたのである。また、理事長自らの震災ボランティアの講演は、映像を基に多くの示唆に富んだ内容であり、震災の心10年に相応しい充実した時間となった。

1.4 高校生のボランティア活動の受け入れ

丸子修学館高校、さくら国際高校、上田高校の3校の生徒たちが、子どもレストランや「0円スーパー・0円食堂」でのボランティア活動を支援することを通して、福祉に対する体験学習の機会となり、進路指導の一助にもなった。

1.5 長野大学、信州佐久短期大学の学生による子どもレストランでのボランティア活動を支援したり、障害福祉サービス事業所での就職事前体験学習を支援した。

1.6 地域住民のエコ活動への支援と貢献

地域住民がエコ活動として取り組んでいる古布や衣類、アルミカン等の収集を支援するために、まるこ福祉会に提供されたものを有効活用する取り組みをして久しい。とんぼハウスやきらりでは、その空き缶回収を推進し、地域住民のエコ活動を支援している。また、再使用できる衣類や補助着の受け入れをして、障害者や老人ホーム入居者への提供に協力している。

1.7 県外定住者の支援

北海道出身者の上田市への定住を推進するために、その就労の場を提供し、地域住民との交流を図った。また、福祉空間内の一室で、マッサージ治療を施し、地域住民に憩いの場を提供している。

1.8 シェルターの受け入れ支援

住宅と食事の場を提供し、社会復帰を通して社会復帰を果たすことに貢献した。

令和2年度 利用者の日々の成長報告

この一年、まるこ福祉会の利用者は、それぞれの職場において、仕事と生活面において、成長した姿が随所にみられた。ここでは、その一端を紹介する。

元来、障害福祉サービス事業所において、利用者は、就労支援B型と生活介護の両面において職員からの支援を受けながら、就労の技術向上と社会的自立を目指して通所をしている。

社会福祉法の第3条には、福祉サービスの基本的な理念が明記されている。そこには、「福祉サービスは、個人の尊厳の保持を旨とし、その内容は福祉サービスの利用者が心身ともに健やかに育成され、又は、その有する能力に応じ自立した日常生活を育むことができるように支援するものとして、良質かつ適切なものでなければならない」と定められている。

私たち、まるこ福祉会では、この「心身ともに健やかに育成」と「能力に応じた自立した日常生活を育む」を堅持しながら、利用者が、21世紀の社会で、「明るく、楽しく、前向きに」（我が法人のATM）に生きていく力を、まるこ福祉会の日常生活の職場で磨き合うことを大切に考えている。

(1) ここで、次のお話しを紹介する。

「利用者の姿から学んだこと」

～5万円を寄贈してくれた、信越国税局の職員のお話し～

これは、令和3年2月25日 午後8時 小林 風雅さんという青年からの電話です。『3年ほど前に、祖母から、まるこ福祉会でボランティアをしてごらん、素晴らしい環境のところだからと言われました。

その後、私は、横浜国立大学で就職活動をしているときでした。まるこ福祉会のきらり度、障害者の皆様と一緒に仕事をさせていただきましたところ、ある背の高い若い男性（利用者）の方が、何やら、手にメーターでしょうか（時計）をもって、時間になると、同じ障害者に呼びかけていました。

すると、障害者の皆さんも、その呼びかけに合わせて、掃除をしたり、仕事を開始したり、食事をするのでした。

この光景から、ここの職場には、言葉に出さなくても、心が繋がっている事だと思いました。信頼とは、このことでしょうか。

そして、レストランに行くと、その障害者の方と、老人ホームの方、地域のボランティアの方が、楽しそうに、コーヒーを飲んだり、お話をしておりました。

障害者の施設の暗さや、辛さ、困難さなど、何も感じられませんでした。

家族といいですか、ファミリーと言いますか、そんな温かさを感じました。

私は、そのまるこ福祉会でのボランティアの貴重な経験が、就職試験の時の面接で、大変役立ちました。』

(2) 2020年4月21日に、FAX送信されたプリントから抜粋

『 草取りをしてくれた皆さん、ありがとう 』

道路で車を走らせていると、まるこ福祉会と書いてある大きな看板の下で、大勢の人たちが、何かしゃがんで仕事をしているようでした。

よく見ると、草を取っていました。車の音もきつとうるさいはずなのに、全員の皆さんが、一生懸命作業をしていたのでした。

働いている人たちは、きつと草をとって、きれいな駐車場にして、大勢のお客様を、心

からお迎えしようとする心の表れだと思いました。

そして、よく見ると、車の通る道路の近くにある草まで取ってくれていました。思わず、ありがとうございますと言いたくなるほど、いい気分になりました。自分たちの駐車場だけでなく、大勢の人々が通る道まできれいにしようとする、心の大きさを感心しておりました。

車の横に座っていた、おばあちゃんは、「偉いねえ、みんなのために、きれいな道にしよう、草をとっている皆さんは、本当に、ありがたいと思いました。素晴らしいことだと思います。」

誰が見ていてもいなくても、みんなのために道をきれいにしようとする心こそが、きれいだと思いました。

ありがとうございました。心のきれいなみなさんへ

この一年、利用者にとっては、仕事や生活を通して様々な出会いや経験をした。成育歴や性格の違いがあっても、障害は個性ととらえ、何があってもみんなで話し合い、解決できる風通しの良い職場をつくることは、利用者だけでなく、私たち職員にとっても重要なことである。

・「認め合う心」と「高め合う心」、そして、「寄せ合う心」、この三つの心を大切にして、利用者と共に成長できる職員集団を目指していきたい。その姿を見せることが、利用者の心の成長にもつながっていくものと思われる。

令和2年度マスコミ取材による、まるこ福祉会の事業紹介

「創立17周年記念 社会福祉法人まるこ福祉会」新聞で見る歴史

※子どもレストラン以外の行事等

1 今年17周年を迎えるまるこ福祉会を、新聞記事で歴史を訪ねた。

西暦	月 日	行事等	新聞社
2010年	9月 14日	理事長 ひと 探訪	信濃毎日新聞①
2019年	2月 5日	南米の日系農業女性と交流会	東信ジャーナル①
	4月 10日	エプソン、福祉法人にプリンター寄贈	信濃毎日新聞②
	4月 20日	農業体験のフランス人一行 まるこ福祉会で国際交流	週刊うえだ①
	5月 5日	映画『兄消える』上映を記念して 上田の皆さんへ	信州民報①
	5月 14日	映画『兄消える』上映を記念して 「出合いは一生の宝」 まるこ福祉会理事長 柳澤 正敏	信州民報②
	5月 17日	信州の四季 写真で捉えた 酒井康彦医師が、きらり写真展	信濃毎日新聞③
	6月 5日	脳活性化ゲーム 1周年 きらりホールで、住民と利用者が交流	信濃毎日新聞④
	6月 5日	きらりホールで、交流 脳活性化ゲーム 開講 1周年記念	信州民報③
	7月 3日	「花風里」が開所 20周年 名称は、『シャープの門』決定	信州民報④
	7月 4日	花風里 20周年記念で制作 「シャープの門」と命名	東信ジャーナル②
	7月 14日	きらり市民ギャラリーで 酒井康弘さん「タペストリー写真展」	信州民報⑤
	10月 25日	まるこ福祉会 福祉空間施設 3周年 「音楽の祭典」歌と踊りを披露	東信ジャーナル③
2020	1月 22日	遠藤一己さん チャリティーコンサート 収益金を子ども食堂へ寄付	東信ジャーナル④
	1月 24日	まるこ福祉会がチャリティーコンサート 「音楽」で子どもたちに元気を届けたい	信州民報⑥
	3月 12日	教訓つなぐ避難訓練 全国の子どもたちが休校中に	読売新聞①
	3月 12日	震災の心、節目の日に 改めて学ぶ教訓 3. 11	信濃毎日新聞⑤
	4月 7日	きらり市民ギャラリーで 美崎太洋さんの個展	信州民報⑦
	8月 1日	8. 15終戦の日 平和の心 詩の朗読コンサート	信濃毎日新聞⑥
	8月 9日	平和への感謝 自作の詩朗読 8. 15終戦の日 コンサート	読売新聞②
	8月 9日	平和の心、詩の朗読コンサート	NHK総合テレビ イブニング信州
	8月 13日	平和の尊さを改めて考えよう	信州民報⑧

	長野大学生らが詩の朗読コンサート	
8月13日	平和への心や家族への感謝の言葉 利用者や長大生が朗読コンサート	東信ジャーナル⑤
9月5日	平和の心 詩の朗読コンサート まるこ福祉会 きらりホールで	週刊うえだ②
10月9日	台風19号を忘れない あれから一年 障害者グループホーム 人が支え	信濃毎日新聞⑦
10月13日	台風19号の教訓を忘れない 助け合い 住民と避難訓練	信濃毎日新聞⑧
2021 1月16日	阪神大震災から26年 防災炊き出し 訓練 住民と日赤奉仕団と協力	信濃毎日新聞⑨
1月19日	阪神大震災の教訓学び、訓練 地域住民と協力の炊き出し訓練	読売新聞③
1月20日	阪神大震災の教訓に学ぼう まるこ福祉会が炊き出し訓練	信州民報⑨
1月22日	まるこ福祉会が防災炊き出し訓練 阪神淡路大震災を教訓に	東信ジャーナル⑥
3月13日	震災の心、バトンリレー10年 講演や高校生の詩の朗読も	東信ジャーナル⑦
4月3日	震災の心、バトンリレー10年 被災地支援活動を振り返り詩の朗読	週刊うえだ③
5月1日	高校生と大学生が中心になって、第33 回子どもレストラン農業体験は、前日の 雨の為、出来なかったが、高校・大学生 ボランティア18名参加で、充実した内 容。	週刊うえだ④
5月8日	0円食堂「尽そうとする精神に感謝」	信濃毎日新聞⑩

○新聞社の内訳 合計33回 平成22年9月～令和3年5月8日

- ・読売新聞 3回
- ・東信ジャーナル 7回
- ・週刊うえだ 4回
- ・信濃毎日新聞 10回
- ・信州民報 9回

○テレビ放映

- ・SBC信越放送テレビ すぐだせテレビ生放送平成30年11月
- ・子どもレストラン関係は、新聞掲載21回、テレビ・ラジオ放映は21回、3年間で計42回

それ以外の行事を合計すると、およそ3年間で78回のマスコミ登場となった。

まるこ福祉会の諸事業や活動は、2018（平成30）年～2021（令和3）年の3年間で、78回、新聞、テレビ、ラジオで紹介された。

今後とも、地域福祉の灯台として、社会貢献活動を推進し、全ては、みんなの幸せのために、植福の風を吹かせて参ります。

2 「こどもレストラン・きらっと」に関するマスコミ取材歴一覧

西暦	年 月 日	各新聞社・テレビ・ラジオ
2018年	平成30年8月4日 第1回「こどもレストラン・きらっと」開始	丸子テレビ① 丸子有線 「こどもレストラン・きらっとオープン」
	平成30年8月5日	信濃毎日「作って、食べて、地域に絆」①
	平成30年8月8日	東信ジャーナル「こどもレストランオープン」①
	平成30年8月21日	朝日新聞「作って、食べて、こどもレストラン」①
2019年	令和元年6月19日 今までの11回を終えて	NHKテレビ「イブニング信州」① 丸子テレビ②
2020年	令和2年2月26日	読売新聞「様々な年代 つながる場」①
	令和2年3月1日	週刊うえだ①
	令和2年3月4日	読売新聞「休校児童 福祉施設で受け入れ」②
	令和2年3月4日	信濃毎日「休校の子に居場所を」②
	令和2年3月5日 全国が休校中の時、こどもレストランの状況	SBC信越放送「モーニングワイド」① ラジオで生放送 朝の8:23~8:28 丸子テレビ③
	令和2年3月6日	信州民報「休校中 こども支援レストラン」①
	同	NHKテレビ「イブニング信州」② NBS長野放送①
	令和2年3月7日	東信ジャーナル「休校中の子どもに居場所」②
	令和2年3月11日 休校中に、こどもレストランで避難訓練を実施	信越放送テレビ「SBCニュースワイド」② NHK総合テレビ 昼、夜2回③ こどもレストランで避難訓練
	同	a b n長野朝日放送「a b nステーション」① 休校中でもこどもレストランで居場所を
	令和2年3月12日	読売新聞③
	令和2年3月21日	週刊うえだ「こどもレストラン開設」②
	令和2年4月1日	NHK総合テレビ コロナに負けない④ 丸子テレビ④
	令和2年7月8日	東信ジャーナル③ 丸子テレビ⑤
	令和2年7月13日	SBCラジオ「信州うわさの調査隊」③
	令和2年10月3日	丸子テレビ「どんぐり山で、自然体験」⑤
	令和2年10月12日	a b n長野朝日放送「a b nステーション」②
	令和2年10月13日	NHK総合テレビ「イブニング信州」19号に学ぶ SBC信越放送「モーニングワイド」④ 朝の生放送ラジオ8:20~8:25 25回を超えたこどもレストランの成果 丸子テレビ⑥
	令和2年11月1日	青少年ながの 長野県社会福祉協議会
2021年	令和3年1月15日	信濃毎日「こども食堂 持ち帰りで」③

2021年	令和3年 1月19日	信濃毎日 「支援の輪 ドライブスルーで」 ④
	令和3年 1月21日	東信ジャーナル④「ドライブスルー方式でこども食堂
	令和3年 2月 6日	丸子テレビ ⑦
	令和3年 2月 7日	信濃毎日新聞⑤こども祭りで、食べ物振る舞う
	令和3年 2月 9日	東信ジャーナル「利用者や住民交流楽しむ」 ⑤
	令和3年 3月24日	信濃毎日新聞⑥「生活困窮者へ食事提供」
	令和3年 3月 6日	週刊うえだ「こどもレストラン・きらっと祭り」③
	令和3年 4月 3日	丸子テレビ ⑧
	令和3年 4月 6日	東信ジャーナル「0円スーパー、0円弁当」 ⑥
	令和3年 5月 1日	週刊うえだ④ 丸子テレビ⑨

◎ 「こどもレストラン」

第1回（平成30年8月4日）～第32回（令和3年4月3日）間における、
マスコミ取材数について

- (1) テレビ・ラジオ 合計 21回
- ・NHK総合テレビ 5回
 - ・信越放送テレビ・ラジオ 4回
 - ・a b n長野朝日放送 2回
 - ・NBS長野放送 1回
 - ・丸子テレビ 9回
- (2) 新聞社 合計 21回
- ・読売新聞 3回
 - ・信濃毎日新聞 6回
 - ・朝日新聞 1回
 - ・東信ジャーナル 6回
 - ・信州民報 1回
 - ・週刊うえだ 4回

令和2年度 施設別 事業報告

1、施設別 事業報告

1、就労継続支援B型事業・生活介護事業

とんぼハウス 就労継続支援B型事業 令和2年度年間利用者実績
生活介護事業 利用者稼働率 75%
上田市生田5071番地1

きらり 就労継続支援B型事業 令和2年度年間利用者実績
生活介護事業 利用者稼働率 99.9%
上田市長瀬2885番地3

1-1 利用定員・職員構成

事業種別		とんぼハウス		きらり	
		就労継続支援B型	生活介護	就労継続支援B型	生活介護
利用者定員		20人	20人	30人	10人
職員	管理者	1人	1人	1人	1人
	サービス管理責任者	1人	1人	1人	1人
	職業指導員 生活支援員	4人	9人	6人	5人
	看護師		1人		1人
	嘱託医		1人		1人

1-2 主な活動内容

	とんぼハウス	きらり
自主活動		
木工製品の製作と販売	○	
資材リサイクル作業アルミ缶回収	○	○
施設外就労	○	○
手芸品の製造と販売	○	○
農作物・果樹の栽培・収穫と販売	○	○
パン・クッキーの製造と販売		○
りんごジャムの製造とフルーツピザの販売		○
大樹の清掃		○
土壌改良とブルーベリーの栽培	○	
受託作業		
箱折り		○
梱包用シートの再利用等の簡易作業	○	○
カレンダーの袋入れ	○	○
石鹸の袋詰めと販売	○	
手芸品の製造	○	○
農作物・果樹の栽培と収穫	○	○
チラシ折込と封入など	○	
上田市丸子物産館「花風里」の受託作業		○
ジャム瓶のシール貼り		○
プラスチック部品の梱包作業	○	○
リサイクル品の回収と分別	○	○
リサイクル品の解体と分別	○	○
障害者優先調達推進法関係	○	
木工製品の製造と販売	○	
ベルパークの花壇散水作業	○	

趣味や特技を活かした活動		
ハワイアンダンス	○	○
カラオケ	○	○
手話ダンス	○	○
楽習会	○	
読書	○	○
フラワーアレンジメント	○	○
その他	○	○

2 総合厨房（ぐらんまるしえ）

① 現在の職員体制

正規職員 5名 臨時・パート職員 11名

② 来客数 17,161名/年

(ア) パン工房

- ・パン、販売の他、ランチを始めました。
- ・ランチの提供（うな重の提供を始めました）
- ・東日本大震災復興支援コーナーを設けました。
- ・健康食品コーナーを設けました。
- ・通所利用者数 1日平均 5.6人

(イ) 厨房

現在の給食数

- ・朝食 特養 大樹の利用者 29食
- ・昼食 特養 大樹の利用者 支援施設きらりの利用者 約 100食
- 両施設の職員
- ・夕食 特養 大樹の利用者 29食

平成29年2月1日より、きらり利用者、大樹利用者及び職員の給食を開始し、4周年を迎えました。

農業班が栽培したお米、葱、じゃがいも等、手作りの味噌を使用し調理しています。

3 グループホーム

① 障がい者共同生活支援 ホームとんぼ 第一、第二、第三

- ・年間の利用率は、85%以上で推移しました（退所者5名、新規入所者3名）。

- ・世話人の確保もできています。
- ・自力通所できる方は、バスを使って通所しています。（8名）
- ・緊急時のシェルター機能を活用

4 上田市物産館 花風里

① 現在の職員体制

正規職員 1名 パート職員 2名

② 事業

- ・クッキーの製造（販売・注文）
- ・すいせん祭り、ラベンダー祭り等のイベント
- ・ランチ（国産うなぎを使用したうなぎ重）の提供及び喫茶の提供
- ・通所利用者数 1日平均2人
- ・来客数 3,441名/年
- ・売り上げ 月平均 414,817円

5 地域密着型特別養護老人ホーム 大樹

① 加算状況：ユニット型介護費、看護体制加算、栄養マネジメント加算、サービス提供体制強化加算（Ⅱ）処遇改善加算（Ⅰ）特定処遇改善加算（Ⅱ）

② 令和2年度年間稼働率（長期入所）99.7%（短期入所）17.3%

施設内での看取り 6名（本人の意向をくみ取り、嘱託医、家族、職員と連携し看取り対応ができました。）

特養退所 0名

③ 現在の総職員数 26名（兼務あり）

	常勤	非常勤	計
施設長	1人		1人
副施設長	1人		1人
医師（嘱託）		1人	1人
看護師	2人		2人
介護職員	15人	5人	20人
管理栄養士	1人		1人
生活相談員	1人		1人
介護支援専門員	1人		1人
機能訓練指導員	1人		1人
事務職員	1人		1人

④ 短期入所（従来型）

平成 30 年 7 月より短期入所を再開後は、利用者が少しずつ増え、リピーターも多く継続利用いただいています。

- ⑤ 福利厚生及び活動：全員の胸部レントゲン撮影実施により健康管理に努めました。

新規職員の採用により研修を充実させ、人材育成に取り組み意識改革を図りました。

全体学習会を定期的を実施し、職員一人ひとりが力をつけどんな場面にも対応できるよう努めてきました。

各種委員会活動を充実させてきました。

コロナ感染症対策による面会制限もあり、ご家族との面会が出来ない時期は、入居者様全員のお宅に職員職員から利用者様の様子や写真などを添えてお手紙を出し、出来るだけ安心して頂ける様に对应してきました。

面会自体も施設内では、キーパーソンのみ面会でアクリル板や次亜水噴霧器を使用したり、他のご家族の皆様にもガラス越し面会で感染症対策を取り安全な環境で行う事が出来ました。

コロナ禍でしたので、感染対策をしっかりと取りながら、施設内行事ユニット行事を工夫し、利用者様に楽しんでいただきました。

さくら小路に植えていただいたいたブルーベリーが沢山実り、利用者様と収穫して、そのまま獲れたてを食べたり、おやつ作りに使い楽しむ事が出来ました。

- ⑥ 特養の使命である看取りも、平成 29 年 3 月の開所以来 20 名の看取り行う事が出来ました。

1、行事等 事業報告

令和2年 4月

入所式
第20回こどもレストラン
お花見



入所式～新しい仲間が増えました～

5月

花風里へ遠足
佐久大学実習生受け入れ

6月

第21回こどもレストラン



みんなでバラのお花見

7月

第22回こどもレストラン
上田養護学校実習生受け入れ



8月

第23回こどもレストラン
利用者夏祭り



8.6平和の心時の朗読コンサート＆利用者お楽しみ会

大樹 夏祭り

9月

第24回こどもレストラン

福祉空間4周年
ロゼッタシャンソンフェスタ



あったかい輪の皆さんと交流研修

10月

第25回こどもレストラン(どんぐり山)
あったかい輪交流研修
福祉空間4周年ロゼッタシャンソンフェスタ
あったかい輪交流研修
秋の遠足(花風里)



毎年恒例の利用者お楽しみ会

11月

第26回こどもレストラン
劇団バク 公演

12月

第27回こどもレストラン
お楽しみ会



成人式



災害炊き出し訓練

令和3年 1月

第28回こどもレストラン
第29回上田こども食堂
成人式
避難訓練・炊き出し

2月 第30回こどもレストラン祭
上田養護学校実習生受け入れ

3月 第31回こどもレストラン
3.11講演と詩の朗読コンサート
すいせん祭り



3.11東北復興支援の講演と詩の朗読

こどもレストラン ~きらっと~



検温・消毒をしっかりと！



みんなで集団遊び



たくさんの遊具で遊びました



パン、ケーキ作りなど体験しました



あったかい輪・連合婦人会の皆さん



丸子修学高校の生徒さん



長野大学・信州大学の学生さん

たくさんの食料支援いただきました



柳原社長・土と人の健康作り隊伊藤さんに感謝状



足長おじさん中藤さんに感謝状



高校生とランチ



ボランティアでステージ



こどもレストラン祭



まるこ福祉会の福祉空間スペースの有効活用、地域社会への貢献



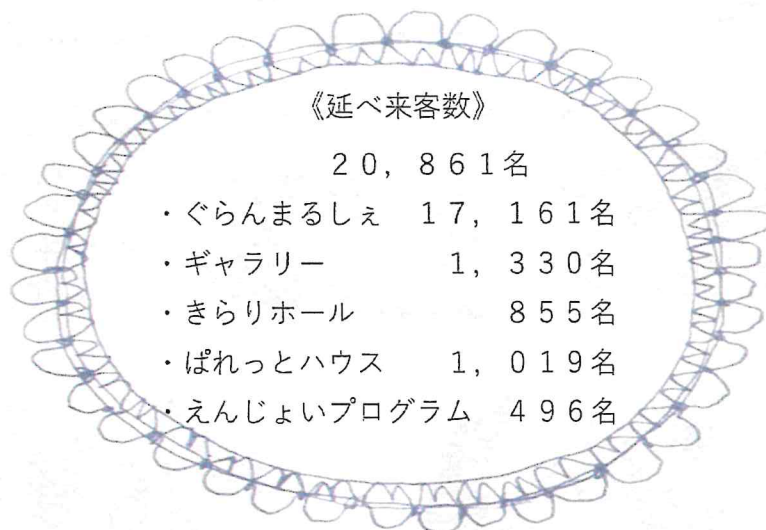
「地域の人と人の絆を結ぶ地域福祉の推進」

～福祉空間スペース～

《各スペースの広さ》

サロン・喫茶	210.17㎡
きらりホール	240.00㎡
展示ロビー	187.68㎡
ぱれっとハウス	40.00㎡
トイレ	40.00㎡

《延べ来客数》



～地域貢献活動～

「社会福祉法人まるこ福祉会」、ボランティア「チームあったかい輪」、「NPO法人子育て応援団ぱれっと」の三者が手をつなぎ、カフェサロンの運営や各種講座を開催しています。

ボランティア「チームあったかい輪」のみなさんは、カフェサロンでのコーヒー等の提供や、地域住民に向けたいろいろな講座【えんじょいプログラム】を企画・開催しています。

カフェサロンではまるこ福祉会の利用者さんが作ったパンやピザ、クッキーなどを販売したり、ランチ・喫茶を提供しており、いつでもどんな時も、ボランティアさんの明るい笑顔と挨拶でお迎えます。

「NPO法人子育て応援団ぱれっと」は子育て相談や、平日の学習支援、子どもさんの一時預かりをしました。

平成30年8月より毎月第一土曜日に開催されている「こどもレストラン きらっと」は、令和3年5月で33回を迎えました。参加したこどもは延べ1,614名、ボランティアは1,350名になりました。特にボランティアは、丸子修学館高校、長野大学、信州大学の学生が回数を重ねるごとに増え、活躍しています。また、80才代のあったかい輪のメンバーや連合婦人会の方も毎回参加されています。

1月16日にはコロナ禍の食糧支援として「第1回うえだこども食堂」を上田市社会福祉協議会と共同開催し、炊き出しを行いドライブスルーでカレー・フルーツピザを振る舞いました。3月30日には地域の方を対象に、「0円スーパー・0円食堂」を開催し、県内外21の協力企業やホットライン信州よりたくさんの米・野菜・お菓子等を届けていただき、黒毛和牛焼肉弁当やうな重と共に多くのみなさんにお配りすることができました。

1.各種団体との協力

①あったかい輪 えんじょいプログラム

新型コロナウイルス感染防止のため多くのプログラムが中止となりました

7月	子育て講座 ヨガ教室 パドル体操教室 折り紙講座 布あそび	8月	ヨガ教室 子育て講座 発声で健康づくり教室 布あそび
9月	ヨガ教室 子育て講座 パドル体操教室 布あそび	10月	子育て講座 ヨガ教室 パドル体操教室 布あそび
11月	子育て講座 パドル体操教室 布あそび	12月	ヨガ教室 子育て講座 パドル体操教室 布あそび
3月	布あそび		

② きらりギャラリー 展示

- ・美崎大洋絵画展
- ・丸子絵手紙クラブ展示
- ・三反田銅友会展示
- ・丸子水彩画クラブ作品展
- ・シェイプアート展
- ・鳥山信子チャリティー写真展
- ・成澤聖空水墨画展

③ きらりホール

- ・長野県特別支援学校進路指導委員会 会議
- ・NPO法人子育て応援団ぱれっと
- ・ロゼッタシャンソンコンサート
- ・長寿社会開発センター 研修
- ・立科シンフォニー コンサート
- ・上田養護学校高等部1年生 お楽しみ会、清掃
- ・東御いきいきサロン 体操
- ・丸子絵手紙クラブ 総会
- ・土と人の健康作り隊講演会

④ 視察

- ・丸子修学館高等学校先生・生徒17名

⑤ 職員研修

- ・新型コロナウイルス対策研修
- ・新人研修 まるこ福祉会の過去・現在・未来
- ・虐待防止講習
- ・交通安全講習
- ・職員の資質向上
- ・防犯研修会

⑥ 職場体験学習受け入れ

- ・上田養護学校高等部生徒・見学、実習
- ・佐久大学実習生
- ・丸子修学館高校実習生

うえだこども食堂～上田市社会福祉協議会にて～



0円スーパー・0円食堂



野菜、果物



焼肉・うな重



利用者も準備手伝いました



たくさんの食料支援物質



多くの方に分配できました

